

A10.9-A10.14

コーパスデータを使い始めた分野

富田 真由

A10.9 意味論

意味論におけるコーパスデータの役割

- ・ 言語項目に意味を与える

例) largelyとbroadlyの違い (Tognini-Bonelli)

使役動詞haveとgetの違い (Gilquin)

- ・ 不鮮明なカテゴリーやgradienceの概念をしっかりと確立する

例) 先行のitの研究 (Kaltenböck)

A10.9 意味論

コーパスデータを利用した最近の研究

- ・ 動詞の相(aspect)の研究 (Xiao and McEnery)

コーパスは意味の研究において語彙レベルだけではなく、意味論の他の中心となる分野においても役割がある。

しかし、機械的なannotationができないので労働力と時間がかかる。

A10.10 語用論

- ・ 話し言葉に関係している
- ・ 初期のコーパスに基づいた語用論研究は London-Lund Corpusに基づいている
- ・ 談話標識(discourse marker)の調査
- ・ vaguenessの研究

A10.10 語用論

- ・ 歴史的語用論

goodbyeとGod be with you の機能の変化

- ・ 語用論にたよっている意味は

自動的に見つけることは簡単にはできない

- ・ 意味論と同じく、手動でannotationをする必要がある

A10.11 社会言語学

- ・ 社会言語学におけるコーパスデータの利用は限られている
- ・ コーパスの利用を妨げる3つの問題
 1. 社会言語学論のコーパス研究に適切な重要なカテゴリーの操作運用
 2. 現在利用可能なコーパスにエンコードされている社会言語学的メタデータの不足
 3. コーパス構築における社会言語学的に厳密な標本の不足

A10.11 社会言語学

- ・コーパスに基づいた研究は語彙レベルのジェンダー研究に限られている
- ・ジェンダー研究の重要な分野: sexism, femininity, sexual identity
- ・社会言語学は音韻論的、文法的変化に焦点を当てていたが、コーパスデータはそのどちらにも関係のない、社会的に関連性のある変化を指摘した
- ・コーパスデータがより重要な役割を果たすためには社会言語学的メタデータをエンコードするコーパスが必要

A10.12 談話分析

- ・コーパス言語学と談話分析はどちらも言語にたよっているが、両者には‘cultural differences’がある
- ・共通して使われる用語でも意味が異なる場合がある

コーパス言語学

- ・サンプルを使う
- ・量的
- ・言語自体に関心を持っている
- ・採集者、書き記す人、分析者は異なる
- ・広く利用できるように作られる

談話分析

- ・テキストの完全性を強調
- ・質的
- ・言語で表現される内容に焦点を当てる
- ・採集者、書き記す人、分析者は同じ
- ・データが広く利用できるのは稀

A10.12 談話分析

- ・ コーパス言語学と談話分析の違いは今は少なくなっている
- ・ コーパスからたくさんのテキストを分析すると、テキストとの接触がなくなる
- ・ コーパスはこの種の研究に役立つ
- ・ 特殊コーパスが特に役立つ
- ・ 政治的な談話、ビジネス談話、学問的な談話など様々なタイプの談話分析にコーパスは使われる
- ・ 比較のために汎用コーパスが使われることもある

A10.13 文体論と文学の研究

- ・ 文体論研究家は言語よりも個々の作品に関心をもっているため、コーパスの利用は限られるように見えるが、コーパスの分析技術はたくさんの面で役に立つ
- ・ 個々の著者の文体の研究に主に特殊コーパスが使われてきた
- ・ 文学のスタイルの特徴を論じる時に汎用コーパスを使うと比較の規範を確立することができる
- ・ 文学性は文学作品に限られていない
- ・ 日常会話のような文学的でない談話にまで文学の性質を広げることができる

A10.14 法言語学

- ・ コーパス言語学が使われ始めた分野の中で最も活気に満ちた分野
- ・ 法廷での評決は人々の生活に影響する
- ・ 自白、目撃証言などのテキストの研究や剽窃の発見にコーパスが使われてきた
- ・ コーパスによって裁判官が陪審に影響を及ぼすために言語的戦略を使っていることがわかった
- ・ 法言語学はコーパスが役割を果たす可能性を秘めている分野

A10.15 コーパスではわからないこと

- ・ コーパスは否定的な証拠を提供しないため何が可能で何が可能でないかがわからない
- ・ コーパスは発見を生むがその説明は提供しないため、直観などほかの方法で説明を見つけなければならない
- ・ 方法論としてのコーパス利用は研究の境界を定義する
- ・ 特定のコーパスでの発見はそのコーパスでの真実を伝えているにすぎない

A10 Summary

- 言語研究へのコーパスに基づいたアプローチ
- A10.2-A10.8
コーパスデータが利用されてきた言語学の主要な分野
- A10.9-A10.14
コーパスデータが使われ始めた分野
- A10.15
言語研究におけるコーパス利用の限界